

# 原子力産業新聞

2007年7月12日  
平成19年(第2387号)  
毎週木曜日発行  
1部220円(送料共)  
購読料1年分前金9500円  
(当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

昭和31年3月12日第三種郵便物認可 発行所 日本原子力産業協会 〒105-8605 東京都港区新橋2丁目1番3号(新橋富士ビル) 郵便振替 00150-5-5895  
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ http://www.jaif.or.jp/ メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

## 中型炉開発で合併会社

### 三菱重工とアレバが覚書

#### 資本金、出資比率などは今後

三菱重工とアレバグループは10日、中型の新規原子力発電プラントの共同開発およびマーケティング実施のための合併会社の設立に向けた覚書に、田和夫社長とロベルソン会長がパリで署名した。両社は、9月末までの合併会社設立を目指し、資本金や出資比率、本社所在地など具体的な検討を進める。

両社は昨年十月の原子力分野協定の合意に基づき、本年四月、出力百十kW、三炉の第三世代PWRを共同開発することを決定している。今回の覚書により、安全面では航空機落下に対する抵抗力・耐久性を持ち、環境対策面では使用済み燃料・廃棄物発生を低減、経済性・効率性の観点からは長期連続運転の

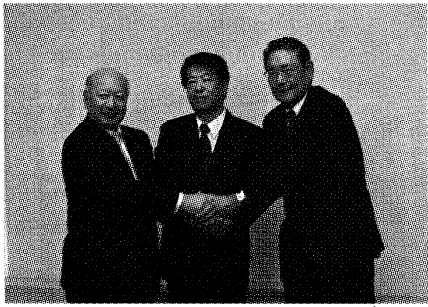
### 照射食品の検知法導入

#### 厚労省 香辛料の輸入検疫で

厚生労働省は6日、輸入香辛料が放射線照射されているかどうかを調べる公定検知法を初めて指定し、同日、全国の検疫所

### FBR開発で基本協定

#### 原子力機構、三菱重工、新FBR会社



右から岡崎理事長、岡田MFR社長、田三三菱重工社長

高速増殖炉の基設計開始までのデザイン・エンジニアリングなど関連業務を一括実施する「三菱FBRシステムズ」(MFR)設立を受け、日本原子力研究開発機構、三菱重工、MFRは五日、三者の果たすべき基本的事項をFBR研究開発を推進す

### 米WH社株10%譲渡で協議中

#### 東芝 カザフ国有公社へ

東芝は七日、同社が七七%を保有する米ウエスチングハウス(WUH)社の株式について、一〇%程度をカザフスタンの国有原子力公社であるカザトムプロム社に譲渡する協議を進めている、と発表した。

カザトムプロム社はカザフスタンの豊富なウラン資源を一手に扱う国有企業で、今回の協議が合意されれば、原子力プラント事業にも進出することになる。同社はウラン資源から燃料加工、プラント機器まで原子力の総合企業を目指している。

全国的には食品衛生法改正に向けた新たな一歩と受け止める関係者もある。同省の食品安全部長の通達によると、「研究結果から、放射線を照射した食品を検知できる場合があることが明らかになった」ことから、香辛料を対象に「熱ルミネセンス(TLS)法」を指定した。同法は、輸入香辛料からサンプル試料を抜き取り、その中の微量の鉍物質を抽出して、その一部に放射線を一定量あてて標準試料を作り、この標準試料とTLS測定装置で発光量を比べることに

### 耐震安全調査チームを設置

#### 安全委員会

原子力安全委員会は五日、耐震安全性に関する調査プロジェクトチームを新たに設置した。昨秋の耐震設計審査指針改定を踏まえ、既設原子力施設の耐震安全性評価結果や耐震安全性に係わる最新の知見について検討する。初会合は十三日、新耐震設計審査指針に照らして、事業者には既設原子力施設の耐震安全性評価が求められているが、本PTでは、その妥当性の確認について規制行政庁から報告を受け、調査審議する。

### この一週間の出来事

(5日(木)～11日(水))

- 三菱重工がCSR指針を策定発表(9日)
- 日スイス科技協定締結、原子力で期待(10日)
- ITER暫定理事会が東京で開幕(11日)

### 原産新聞の紙面から

- 国内ニュース  
・日米が原子力緊密協定の推進で合意  
・「もんじゅ」燃料、2次審査開始  
・経産省、文科省、内閣府の人事異動  
・原子力機構と住友電工が環境プラ材料開発  
・医用原子力財団が研究助成の贈呈式
- 海外ニュース  
・米口、発展途上国への原子力導入支援で声明  
・米プロジェクト、新たにAP1000の採用決定  
・ブラジルのアングラ3号機、建設再開へ

購読者の申し込み  
TEL 03(5641)8357  
FAX 03(5641)8360

## 原子力eye

8月号 発売中!!  
定価1,640円(税込)送料実費  
年間購読料19,680円

### 特集 待ったなしの原子力人材育成

- 大学等における原子力分野の人材育成について
- プログラム応募案件の審査について
- 電力業界の原子力人材確保の現状と課題、施策への期待と自助努力
- 原子力関連メーカーの原子力人材確保の現状と課題、施策への期待と自助努力
- 原子力安全規制における人材確保の現状と課題
- 原子力人材育成への原子力学会の取り組み
- 大学としての原子力人材育成での取り組み—東京大学
- 大学としての原子力人材育成での取り組み—京都大学

- 高専での取り組み—放射線挙動シミュレーションを利用した原子力関連研究と教育・指導能力の質向上(八戸工業高等専門学校)
- 高専での取り組み—地域連携でシミュレータ利用による原子力関連講義の実施(阿南工業高等専門学校など)
- 「原子力人材育成関係者協議会」の設置の目的と今後の活動

#### 【特別企画】

平成19年度 第1種放射線取扱主任者試験—直前チェックポイント①  
化学/生物学/物理学/化学/生物学

#### 【新連載】

革新的原子力システムの実現へ  
—成果が出始めた文科省の研究開発事業 第1回

#### —シリーズ—

- WORLD NEWS ●私たちの「原子力」学習 ●座標軸
- エネルギー・ウォッチ ●知所先後 ●自然治癒の力